

科学教育研究レター



目 次	
■ 新会長のご挨拶	2
■ 総会	
第28回定時総会報告	4
■ 年会	
第28回年会報告	5
年会発表賞	5
若手の会報告	6
第29回年会案内（第1次）	6
■ 理事会だより	
第206回理事会報告	7
第28回顧問会・評議員会	
・支部役員会合同会議報告	7
第207回理事会報告	8
第208回理事会報告	8
■ 支部会だより	10
■ 会告	
シンポジウム開催のお知らせ	10
■ 編集委員会だより	11
■ 研究会だより	
平成16年度	
第1回研究会開催案内	11
第2回研究会開催案内	13
第3回研究会募集案内	14
平成15年度	
第6回研究会報告	14
平成16年度今後の開催予定	15
購読費納入のお願い	15
■ 科研費のお知らせ	15
■ 会員拡大に対する協力のお願い	16
■ 広報委員会からのお知らせ	16

れているのが実情であろう。30年前と比べて、社会と時代の変化は加速度的となり、今後ますます社会変化はめざましくなるに違いない。そうだとしたら、上に述べたような哲学的思索とは別の次元で科学教育研究の実践的な姿も考えてみる必要もあるように思う。趣意書にも、一方で上述のような理想を掲げその種の研究を推進すると同時に、他方では、「会員の要望にこたえる」研究活動、「広く公共に支持され、科学教育の進歩発展に寄与」する研究活動も展開しなくてはならないと書かれている。本年8月の千葉大会のスローガンは、「社会に生きる科学教育」ということであつた。このような方向性は、まさに、科学教育にかかわっている多くの教師や専門家のニーズを取り上げ、それを満たすような研究成果を提供するような研究活動を志向していることになる。

私は個人的には、これまで30年間の科学教育研究は大きく分けて、二段階で発展してきたと考えている。最初の段階は、いわば「科学への奉仕を志向する科学教育研究」だつたと思う。科学の発展に資する科学教育の研究、科学の正しい理解を促進する科学教育の研究、科学の効果的・効率的教授法の開発・促進をめざす研究などが主流だつた。次の段階は現在の主流である「社会的ニーズへの対応を志向する科学教育研究」だろう。科学の社会的理解を促進する科学教育の研究、高度化・進化する科学に対応した科学教育の研究、社会に影響を与える科学技術問題に対応した科学教育の研究、学術共同体の動きに対応した科学教育の研究、社会状況の変化に対応した科学教育の研究などがこの範疇に入る。

そして、最近、第三段階に入りつつあるような気がしている。これまでの研究伝統をベースにし、それらをさらに止揚した形の新しい科学教育研究群として「人々と協働し共進化する科学教育研究」を想定できそうなのである。ここでは、「社会と対話し協働しながら近未来とそこでの生き方を共に読み解き、社会のあるべき姿を見通した具体的な提案・提言を行い、社会と協働して実践していく科学教育の研究」の姿が見えてくる。

本学会では従来から、科学者、数学者と科学教育専門家、現場教師とのジョイントは盛んだったが、科学教育研究という営為の対等なステイク・ホルダーとして、児童生徒、PTA、一般市民、メディア、政治家などを想定したことはあまりなかった。しかし、社会全体の高学歴化、知識情報の氾濫状況、科学技術の絡む社会問題の身近な場での発生などといった状況下では、科学者も科学教育研究者も現場教師も、これらの人々の声を聞かないと社会のニーズに応えることも、共に社会を創っていくこともできないし、新しい研究課題さえ発見できないだろう。だから、これからは、科学者、科学教育研究者、現場教師だけでなく、広く社会の人々との対話・交流の場を設け、彼らを科学教育研究のパートナーとして位置づけ、彼らと協働して近未来像を語ることによって、そこから新しい展望とニーズに基づく科学教育研究の新領域が開拓されていくような気がしている。人々と暫定的な未来像を策定しながら、その社会をめざすための科学教育をデザイ

日本科学教育学会 第28回定時総会 議事要録

日 時 2004年8月7日(土) 13:30～14:30
会 場 千葉大学 けやき会館

次 第

1. 開会の辞 (伊藤 卓 副会長)
2. 第28回年会実行委員長挨拶 (貫井 正納 年会実行委員長)
3. 会長挨拶 (木村 捨雄 会長)
4. 議長選出
定款第26条により木村捨雄会長を議長に選出した。
5. 議事録署名人委任 (木村 捨雄 会長)
議事録署名人を貫井 正納(千葉大学)、村瀬 康一郎(岐阜大学)の両会員に委任することを拍手をもって承認した。
総会出席者115名、委任状33通で定時総会成立を確認した。
6. 審議 (議長 木村 捨雄 会長)
 - 1) 第1号議案の提案 (鳩貝 太郎 理事)
2003年事業報告書及び2003年収支決算書の説明と提案が行われた。
 - 2) 監査報告 (三宅 征夫 監事)
監査の結果、学会のすべての会計処理が適正に行われていたことを確認した旨の報告があり、第1号議案は承認された。
 - 3) 第2号議案の提案 (鳩貝 太郎 理事)
2004年度事業計画書及び2004年度予算書(案)の説明と提案が行われ、第2号議案は承認された。
 - 4) 第3号議案の提案 (鳩貝 太郎 理事)
役員選任規程に基づき提案された第3号議案は承認された。
 - 5) 第4号議案の提案 (鳩貝 太郎 理事)
定款10条に基づき提案された第4号議案は承認された。
7. 表彰
 - 1) 経過報告 (稲垣 成哲 理事)
学会賞選考委員会での選考経過の報告が行われた。
 - 2) 表彰 (木村 捨雄 会長)
科学教育実践賞
○中村重太(福岡教育大学)、○村瀬康一郎(岐阜大学)、○加藤直樹(岐阜大学)
奨励賞
○舟生日出男(茨城大学)、○山下修一(千葉大学)
年会発表賞
○山本智一(神戸大学発達科学部附属住吉小学校)、○出口明子(神戸大学大学院)、
山口悦司(宮崎大学)、○舟生日出男(茨城大学)、○稲垣成哲(神戸大学)
○稲垣成哲(神戸大学)、○竹中真希子(神戸大学大学院)
○戸田孝(琵琶湖博物館)
8. 新会長挨拶 (小川 正賢 会長)
9. 次年度第29回年会実行委員長挨拶 (代理: 村瀬 康一郎 岐阜大学教授)
10. 閉会の辞 (伊藤 卓 副会長)

(記録: 吉岡 亮衛 事務局長)

議事録署名人

日本科学教育学会第28回定時総会の議事が、上記のように執り行われたことが間違いないことを証します。

貫井 正納(第28回年会実行委員長) 村瀬 康一郎(第29回年会実行委員長代理)

第 28 回の年会在、「社会に生きる科学教育」をテーマとして、2004 年 8 月 6 日～8 日に、千葉大学西千葉キャンパス（教育学部、けやき会館）にて開催された。ようやく残務処理がほぼ完了したところだが、この年会在を振り返って、全体としては「成功であった」と総括している。ここで、開催までの苦労話、本年会在の特色、あるいは残された課題などをまとめておきたい。

開催を引き受けた千葉大学の実行委員会として、まず直面した課題は、日程と会場であった。日程は 8 月前半に設定する以外はなかったが、会場との兼ね合いが問題であった。この時期には、大学説明会（オープンキャンパス）、学校教員の単位認定講習、学校図書館司書教諭講習、そして学校教員の 10 年経験者研修（キャリアアップ講座）が予定されていた。しかも教育学部講義棟には空調設備がほとんど設置されていなかったからである。入試課など大学本部、学部長や学部運営会議、あるいは学部教務係などと交渉の末、大学から後援の許可を得、講義室 6 室にクーラーを新設するなどして、何とか日程と会場を確保したのであった。また生物・地学系の巡検などとの関係は、学生アルバイトの確保に困難を増した要因の一つであった。

もう 1 つの課題は、発表原稿の集まりの悪さであった。そのため『年会論文集』の印刷に遅れが出て、準備全体の遅れに影響を及ぼし、7 月には、いくらかヤキモキすることがあった。

しかし結果的には、次の 3 点からも、最初に述べたとおり、成功であったといつてよいだろう。

①一般研究、課題研究、ワークショップなど、主な研究発表の会場を、クーラーのある教育学部 2 号館に集中させることができた。②全体として発表件数が多く、『年会論文集』は、目次や広告まで含めると 700 ページ近い分厚さに達した。③参加者が 400 人を超えた。

発表件数や参加者の増加は、千葉大学のもつアクセスの良さだけでなく、年会企画委員会の努力の結果があったと思われる。本年会在から、今後の科学教育研究を見据えた分科会（セッション）の立て方となったが、年会企画委員が各セッションを分担して発表を呼びかけたことがある程度奏功したと考えられる。

なお、シンポジウムは 1 つでそのテーマは、「科学のための科学」から“社会のための科学”と科学教育・科学教育研究の新しい展開”であった。課題研究は、学会企画が 7 テーマ、自主企画が 13 テーマあった。ワークショップは 4 件開催された。その外、多数の一般研究発表が展開された。また科学教育研究セミナー、科学教育実践セミナー、ミニ国際シンポなどが開催された。ただ今回は、ポスター発表を行わなかった。これは昨年度の件数の少なさと、会場の都合からであった。

多様な研究発表のうち、千葉大学の実行委員会として、科学教育実践セミナーとミニ国際シンポの開催に特色を出すこととなった。前者では、地域で科学教育を推進しようとしている「ちばサイエンスの会」の活動を紹介し、こうした取り組みの課題を探った。後者では、招待したオーストラリアの科学教育と数学教育の研究者から、若手研究者・実践者に示唆をいただいた。

ところで本年会在は、シンポジウムのテーマどおり、新たな科学教育研究・実践の基礎を築こうとした節目の年会在であった。総会においては、長らく学会の発展に心血を注いでこられた木村・前会長から、若々しい小川新会長へとバトンが手渡された。学会の更なる発展を期待したいものである。

さて、本年会在を振り返って、年会開催に関する課題を率直に 2 点指摘しておきたい。1 つは、予算面に心配が生じたことである。今後も『年会論文集』が今回と同程度かそれ以上に厚くなると、その心配が増す。また、年会開催には相当のアルバイトを必要とするが、アルバイトをある程度ゆとりをもって雇えないと、実行委員会の実務作業の負担は大変なものとなるだろう。もう少し、年会補助の予算アップが検討されて良い。2 つ目は、理事会等学会本部、年会企画委員会、実行委員会という 3 者間の連携の難しさである。その一因は、皆が大学等所属機関の内外両面で大変に多忙であり、中心人物を 1 人に確定し難いことにある。千葉大学の実行委員会としても、事務局長だけでは全ての話が通じないことがあり、ご迷惑をお掛けしたと反省している。

さて紙幅が尽きた。本年会在の開催に関わった全ての方々、学会本部、後援団体、協賛団体、学生を始めとするアルバイト、そして参加・発表して下さった皆さんに、心からなる感謝を申し上げたい。

（第 28 回年会企画委員会・実行委員会 文責：千葉大学・鶴岡義彦）

「年会発表賞」決定

第 28 回年会（2004 年）の発表賞について、次の 3 件が年会発表賞に決定しました。おめでとうございます。

なお、今回の総投票数は 128 件で、有効投票数は 124 件でした。3 票の投票は 5 件、4 票は 2 件、5 票は 3 件でした。選考委員会では、4 票以上の得票があった発表 5 件に対して慎重に審議し、候補を選定しました。その後、第 208 回理事会の議を経て年会発表賞の決定をしました。

竹中真希子（大分大学）・黒田秀子（神戸大学発達科学部附属吉住小学校）・稲垣成哲・大久保正彦・土井捷三（神戸大学）：「カメラ付き携帯電話を利用したフィールドワークプログラムの開発と評価：小学校 2 年生の生活科「冬みつけ」」、日本科学教育学会年会論文集 28、303-306

古澤亜紀（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究所）：「海」を鍵にした理科の学習 海水の蒸発乾固（岩塩）からみる大陸移動の教材化」、日本科学教育学会年会論文集 28、401-402

東原義訓・中村浩志・漆戸邦夫・赤羽貞幸（信州大学教育学部）：「科学者の問いの連鎖を追体験する理科デジタル教材の開発」、日本科学教育学会年会論文集 28、569-570

発表者で下線がついている方は非会員です。候補の選考過程では、評価の観点について、竹中会員他の発表については新奇性・有用性が、古澤会員の発表については新奇性が、東原会員他の発表については有用性が、それぞれ高く評価されました。

（担当理事：吉村・余田）

若手の会

若手の会は、年会第1日目の8月6日（金）18：00～20：00、千葉大学けやき会館1Fにて開催しました。参加者数は、会員48名、非会員14名の計62名でした。

会合の内容は、次の通りでした。(1)参加者間で、お互いの研究関心・研究内容について情報交換を行いました。(2)編集委員会の村山功委員（静岡大学）と森田裕介委員（長崎大）に依頼し、学会誌論文の投稿・審査に関するレクチャーを実施しました。参加者からも、論文の投稿・審査について質問が出され、建設的な意見交換が行われました。(3)若手会員同士のネットワークづくりのために、今後に取り組むべきことについて議論しました。メーリングリストを立てること、学会の研究会のどこかに集中的に参加すること、などの提案がありました。

なお、若手のネットワークを継続・発展していくために、専用のメーリングリストを立ち上げました。登録を希望される方は、担当の山口悦司会員宛 <etuji@cc.miyazaki-u.ac.jp> にご連絡ください。

第29回年会案内（第1次）

年会企画委員会・年会実行委員会

- 1) 年会テーマ：（未定）
- 2) 期 日：2005年9月9日（金）～11日（日）
- 3) 会 場：岐阜大学教育学部・岐阜大学共通教育（岐阜市柳戸1-1）
周辺地図：<http://www.gifu-u.ac.jp/annai/access.html>
キャンパス内地図：<http://www.crdc.gifu-u.ac.jp/access/index.html>
- 4) 交通機関：【JR】岐阜駅までは名古屋駅から快速で20分程度。岐阜駅前から岐阜バス（岐阜大キャンパス線）で約30分（310円、約15分おきに発車）、またはタクシーで約20分（2,000円程度）。岐阜バスの時刻表・乗り場については、次のURLをご参照ください。
<http://www.gifubus.co.jp/noriai/>
- 5) 主 催：日本科学教育学会（後援等は未定）
- 6) 年会実行委員会：
[委員長] 佐々木嘉三（岐阜大学理事）
[事務局] 村瀬康一郎（岐阜大学総合情報メディアセンター）murase@cc.gifu-u.ac.jp
益子典文（岐阜大学総合情報メディアセンター）mashiko@cc.gifu-u.ac.jp 他
[連絡先]（仮）〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学総合情報メディアセンターC館
カリキュラム開発研究部門（TEL 058-293-2345 Fax 058-230-1139）
- 7) 内容（予定）：次の内容を予定しています。
(1) シンポジウム、(2) 課題研究発表、(3) 一般研究発表、(4) 科学教育研究セミナー、
(5) ワークショップ（教材教具の展示・演示を含む）、(6) 総会、(7) 懇親会、(8) 若手の会、
(9) 各種会合等
- 8) 企画の募集：課題研究、ワークショップなどについて企画をお持ちの方は、平成17年1月7日（金）までに年会担当理事である吉村忠与志（tadayosi@fukui-nct.ac.jp）または、余田義彦（yoden@myad.jp）までご連絡ください。

若手の会のメーリングリストを立ち上げました！

第28回年会で開催しました「若手の会」は、盛況の内に終了いたしました。

この会合で新しく作られたネットワークを継続し、それをさらに発展させるために、若手の会専用のメーリングリストを立ち上げました。今後は、このメーリングリストを通じて、様々な交流・情報交換をしていきたいと思っております。

現在のメンバーは当日の参加者ですが、当日参加できなかった方の登録も大歓迎です。ぜひ、ご参加ください。

また、このメーリングリストは、非会員の方でも参加できます。科学教育にご関心のある方がお近くにいらっしゃいましたら、お誘いください。

○ 登録の申込方法：担当の山口悦司会員宛 <etuji@cc.miyazaki-u.ac.jp> に、電子メールで「JSSE 若手の会メーリングリスト参加希望」とご連絡ください。

* 第28回年会「若手の会」企画担当委員：

銀島文（金沢大学）ginshima@ed.kanazawa-u.ac.jp

久保田英慈（愛知産業大学三河中学校）kubota@asu.ac.jp

森田裕介（長崎大学）ymorita@net.nagasaki-u.ac.jp

山口悦司（宮崎大学）etuji@cc.miyazaki-u.ac.jp

日本科学教育学会第206回理事会議事要項

(議事録の要点のみ掲載)

日時 2004年8月6日(金) 17:30～18:10

会場 千葉大学けやき会館

出席者 会長:木村 理事:伊藤、稲垣、浦野、小川、熊野、坂谷内、瀬沼、中山、鳩貝、
東原、藤田、松香、余田、飯高
事務局長:吉岡 監事:三宅 オブザーバー:大木道則、高野庸

1. 議事要録(案)の承認

○第205回理事会議事要録(案)を承認した。

2. 報告事項

1) 庶務

○名誉会員推薦候補の小島繁男顧問は6月19日逝去された。

3. 協議事項

1) 入退会希望者等について

○入会希望者15名、退会希望者11名を承認した。

[入会希望者]

非 公 開

[退会希望者]

非 公 開

*現在会員数 1,172名(8月6日現在)

(正会員1,125名、学生会員39名、公共会員1名、賛助会員3名、名誉会員4名)

2) 顧問の推薦について

○会長から大木道則顧問の名誉会員辞退により今後も顧問として推薦すること、及び兵頭俊夫会員、上野健爾会員を新たに顧問に推薦することについて承認した。

3) 年会について

○第29回年会は岐阜大学で開催することについて承認した。

4) 第28回定時総会の議事案件について確認した。

5) 第28回定時総会の持ち方について確認した。

6) 第28回顧問会・評議員会・支部役員会合同会議の開催について確認した。

7) 編集委員会規程の改定について及び国際貢献賞の新設に関わる表彰規程の改定は新理事会に引き継ぐこととした。

第28回顧問会・評議員会・支部役員会合同会議報告

日時 2004年8月6日(金) 18:00～20:00

会場 千葉大学けやき会館レセプションホール

第28回顧問会・評議員会・支部役員会合同会議は、顧問(1名)、評議員(17名)、支部役員(4名)、役員(17名)及び年会実行委員等(3名)が出席して開催された。木村会長から、「科学教育をめぐる状況は総じて好意的になっている。8年間本学会の会長として精一杯やってきた。本学会のこれからの役割がますます重要であり、小川新会長を中心にした新生日本科学教育学会に期待したい」

という主旨の挨拶に続いて、第28回年会実行委員長の千葉大学貫井正納会員から歓迎の挨拶があった。その後、鳩貝理事（庶務）からの事業報告、事業計画等についての説明が行われた。その後、学会運営及び事業等についての討議が行われ、顧問、評議員、支部役員から本学会への期待と要望、各理事からは今年度の課題等についての意見が出された。

最後に岐阜での次期年会の成功に向けて努力することを確認し散会した。

日本科学教育学会第207回理事会報告

日時 2004年8月8日（日） 14:30～15:30

会場 千葉大学 けやき会館

出席者 会長：小川（正） 理事：伊藤、浦野、熊野、坂谷内、藤田、松香、余田、磯田、小川（義）、垣花、小林、猿田、村瀬
事務局長：吉岡 オブザーバー：谷口、鳩貝

1. 議事要録（案）の承認

○2004年8月6日に開催された第206回理事会議事要録（案）の承認については、次回の理事会に提案し承認を求めることとした。

2. 報告事項

○新任役員が紹介された（継続の役員を除く）。

会長 小川 正賢 神戸大学発達科学部教授

理事 赤堀 侃司 東京工業大学教育工学開発センター教授及び大学院社会理工学研究科教授

授

有山 正孝 前電気通信大学学長

磯 哲夫 広島大学大学院教育学研究科助教授

磯田 正美 筑波大学教育開発国際協力研究センター助教授

小川 義和 国立科学博物館経営計画室長

垣花 京子 東京家政学院筑波女子大学短期大学部教授

小林 辰至 上越教育大学学校教育学部教授

猿田 祐嗣 国立教育政策研究所教育課程研究センター総括研究官

村瀬康一郎 岐阜大学総合情報メディアセンター教授

吉田 淳 愛知教育大学教育学部教授

吉村忠与志 福井工業高等専門学校教授

監事 戸北 凱惟 上越教育大学学校教育学部教授

3. 協議事項

1) 新年度の活動方針及び活動計画について

○新会長から、①会員拡大、および②学会の社会的貢献（なるべく予算をかけずに）の2点を重点目標としたい旨、発言があった。

2) 新年度理事の会務分担について

○副会長に伊藤 卓理事、赤堀侃司理事が指名された。

○理事の会務分担について提案があり、次回に承認することとした。

○評議員、各委員会（編集、広報、国際、年会企画）の委員長・委員の候補案を次回に協議することとした。

日本科学教育学会第208回理事会報告

（議事要録承認前。要点のみ参考掲載）

日時 2004年9月18日（土） 14:00～17:00

会場 国立教育政策研究所 南館会議室

出席者 会長：小川（正） 理事：赤堀、有山、磯、磯田、伊藤、浦野、小川（義）、垣花、小林、坂谷内、猿田、清水、藤田、村瀬、吉川、余田、吉田、吉村
事務局長：吉岡 オブザーバー：大木道則

1. 議事要録（案）の承認

○第206・207回理事会議事要録（案）を承認した。

2. 報告事項

1) 庶務

○第28回定時総会議事要録案に議事録署名人の署名が終了した。（8月25日）

2) 機関誌編集

○第28巻第3号（和文）、第4号（英文）、第5号（和文）第29巻第1号（特集号）、第2号（和文号）の準備中。

○「科学教育研究」の審査中論文26編（和文22編、英文4編）、新規投稿論文1編（和文1編、英文0編）。

○IT化に対応して、諸規定の改定を行った。

3) 広報

○レター次号No. 165を10月15日に発行予定。

- 4) 年会・学会賞
○年会企画委員会を開催し、千葉大会の総括、岐阜大会に向けての年会企画の基本方針の検討を行った。
- 5) 研究会
○「研究会研究報告」編集作業等の変更および今年度のスケジュールについて報告があった。
- 6) 学術交流
○有山理事から日本物理学会等4団体の共催で開催される「物理チャレンジ2005」および「世界物理年日本委員会」立ち上げについて報告があった。
○教科「理科」関連学会協議会が開催する12月12日(日)のシンポジウムにおいて「高等学校理科の在り方」についての提案を行うことになり、本学会でも原案作成に関わることとなった。
- 7) 事務局
○「ゲノムのひろば2004」を受け付けた。(7月5日)
○「特定外来生物被害防止基本方針(案)に係る意見募集」を受け付けた。(7月12日)
○「笹川科学研究助成募集」を受け付けた。(7月12日)
○科研費研究成果公開発表Bの「主催団体の代表者交代届」提出。(9月13日)
○第28回年会実行委員会委員長宛に年会開催の礼状を発送した。(9月15日)
○「注目科学技術領域の発展シナリオ調査」シナリオライターの推薦をした。(9月17日)
3. 協議事項
- 1) 入退会希望者等について
○入会希望者9名を承認した。
〔入会希望者〕

非 公 開

- 〔退会希望者〕
なし
*現在会員数 1,183名
(正会員1,128名、学生会員39名、公共会員1名、賛助会員3名、名誉会員12名)
※今年度末退会2名を含む。
- 2) 会務分担について
○小川会長から、副会長および各理事の会務分担について提案があり承認された。
○小川会長から、今後の会務遂行について説明があり、賛同が得られた。
- 3) 顧問の委嘱について
○大木道則、飯高 茂、木村捨雄、澤田利夫、西之園晴夫、細矢治夫、三宅征夫の7氏に委嘱することで承認された。(任期2年間)
- 4) 第29回定時総会の日程について、平成17年7月30日に開催することとした。
- 5) 編集委員会について
○編集委員会委員(案)を承認した。
- 6) 支部について
○支部役員(案)が提案され、承認された。
- 7) 英文HPについて
○各委員会に依頼するための原案を作成し、次回提案することとした。
- 8) 年会企画委員会について
○年会企画委員会規程の改正および年会企画委員会委員(案)が提案され、承認された。
- 9) 学会賞について
○第28回年会(2004年)発表賞について
総投票数128件(一般75件、座長53件)、有効投票数124件の中から、得票が多かった発表の内3件について発表賞としての推薦があり、承認された。
○国際貢献賞規程について、字句の修正の上、承認された。
- 10) 研究会
○研究会運営委員(案)について提案され、承認された。
- 11) 後援名義に関する手続きについて
○支部大会等を含めて、できるだけ多くの後援をすることとした。
- 12) 今後の活動について
○来年の年会に向けて、セッションの内容などについて年会企画委員会で検討することとした。
- 次回第209回理事会予定 2004年11月20日(土)14時から17時

北陸甲信越支部長 富山大学教育学部 山西潤一

大学と地域連携シンポジウムとして、「大学は小・中・高校とどのように連携できるか-理科大好きスクール・SSH・SPPとの関わり-」を予定しています。シンポジウムでは、小・中学校における理科大好きスクール、高校におけるSSH（スーパーサイエンスハイスクール）、SPP（サイエンスパートナーシッププログラム）の各取り組みの報告を通して、今後の大学の連携の方向性を議論します。ご多忙中とは存じますが、多数の方々のシンポジウムへのご参加を期待しています。

主題 大学は小・中・高校とどのように連携できるか
-理科大好きスクール・SSH・SPPとの関わり-

日時 2004年12月4日（土）13:00～18:00

場所 富山大学（〒930-8555 富山市五福3190）黒田講堂会議室 **参加費** 無料

主催 富山大学 **共催** 富山県教育委員会、日本科学教育学会北陸甲信越支部 **後援** 北日本新聞

問合せ 日本科学教育学会北陸甲信越支部（富山支部）岸本忠之（富山大学教育学部）

TEL 076-445-6287 e-mail kisimoto@edu.toyama-u.ac.jp

プログラム 12:30～13:00 受付

13:00～13:20 開会の挨拶

13:30～15:35 理科大好きスクールに関する実践報告と討論

15:35～15:45 休憩

15:45～16:35 SPPに関する実践報告と討論

16:35～17:30 SSHに関する実践報告と討論

17:40～18:00 総括討論

富山大学は小・中・高校とどのように連携していったらよいか

18:00～18:10 開会の挨拶

※シンポジウム終了後、18:30から懇親会を予定しています。 **申込み**：当日 **参加費**：1,000円

シンポジウム開催のお知らせ

会 告

科研費研究成果公開促進費による市民対象のシンポジウムを下記の通り開催します。参加費は会員・非会員を問わず無料です。会員の皆様の御参加及びご友人への参加の勧誘を積極的にお願ひします。詳細は学会のホームページをご覧ください。（<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsse2/news/sysmpo2004nov.html>）

テーマ：「科学教育に関する新しい教育課程への提言に向けて」

日時：11月6日 10:00～16:00 [開場：9:30]

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター 渋谷区代々木神園町3-1

（小田急線「参宮橋」または東京メトロ「代々木公園」下車）（地図 <http://www.nyc.go.jp/users/d7.html>）

I シンポジウムの目的

本シンポジウムは、学問体系のみならず学習者や教師、保護者という視点から、数学や理科、技術科に関する新しい科学教育の教育課程が具備すべき条件や、新しい教育課程に期待するものを顕在化することを目的とします。

II プログラム

第1部「新しい教育課程への提言」研究提言（10:00～12:00） **司会**：角屋重樹（広島大学教授）

数学教育研究者としての新しい教育課程への提言：

茅野公穂（筑波大学院生）・清水静海（筑波大学助教授）

理科教育研究者としての新しい教育課程への提言：松浦拓也（広島大学講師）

技術教育研究者としての新しい教育課程への提言：竹野英敏（茨城大学助教授）

第2部 シンポジウム「新教育課程への提言」（13:30～16:00） **司会**：清水静海（筑波大学助教授）

①保護者の立場からみた科学教育の教育課程改善への提言：後藤富美子（東京都千代田区立番町小学校教諭）

②小学校算数科からみた科学教育の教育課程改善への提言：細水保宏（筑波大学附属小学校教諭）

③中学校数学科からみた科学教育の教育課程改善への提言：渡辺博典（千葉市教育センター指導主事）

④科学教育への提言：河合正治（ヒューマンテクノロジー代表取締役・日本水連 JOC 競泳強化コーチ）

シンポジウムの議論は、以下の3点で構成されます。

- 1) 現在の科学教育課程の現状と課題の指摘
- 2) 現在の科学教育課程についての現状と課題の分析
- 3) 科学教育に関する具体的な教育課程を期待するもの

8月7日(12:30-13:30)、平成16年度第1回編集委員会が千葉大学けやき会館で開催されました。年に1度、年會に合わせての委員会であり、多くの委員にお集まりいただくことができました。9編もの新規投稿論文がありましたが、出席された委員が積極的に査読を引き受けてくださり、スムーズに査読者の決定を行うことができました。その後、編集委員会の懸案事項である査読内規等の改訂について討議いたしました。事前にMLで原案をお知らせし、ご意見を伺いましたが、時間内に合意を得るには至りませんでした。再度、ML上でご意見を伺うことになりました。最後に、新編集委員会の構成員の推薦状況が報告され、重ねての推薦依頼がなされました。

9月18日(12:00~14:00)には、第2回編集委員会が国立教育政策研究所において開催されました。新編集委員が決まっていなかったため、編集委員会規定に基づき、前編集委員に出席をお願いいたしました。編集状況の報告の後、①新規投稿論文の査読者について、②新編集委員会構成員候補者について、③特集号テーマについて討議いたしました。①については、資料に基づいて2編の新規投稿論文の査読者を決定いたしました。②については、ご推薦いただいた構成員候補者から、研究分野等を考慮して、原案が作成され、理事会の承認を得ることとなりました。③については、今年度も科学研究費補助金(研究成果公開促進費)による特集号を刊行することになりましたので、その特集テーマをどうするかを検討されました。特定領域研究「新世紀型理数科系教育」に関するテーマで特集を組むという方向が示されました。なお、第1回編集委員会において、再審議となった編集内規等の改訂については、MLにおいて異議が提出されませんでした。よって、第2回編集委員会において、編集内規等の改訂案が承認されたものと判断いたしました。

最近1年間の学会誌の編集状況は、下の表の通りです。英文号の掲載論文が3編しか決まっております。審査中の英文論文もわずか3編です。皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

次回の編集委員会は、11月20日(土)、国立教育政策研究所で開催する予定です。編集委員会に対するご意見等がございましたら、お知らせ下さい。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況 (平成16年9月30日現在)

年 月	新規投稿論文数		掲載決定論文数 (掲載号)		掲載拒 (辞退) 論文数
	和 文	英 文	和 文	英 文	
2003年10月	3			1 (27-4) 1 (28-4)	1
11月	3		1 (28-1)		
12月	8		1 (28-1) 3 (28-2)		1
2004年1月	6		6 (28-1) 2 (28-2)	1 (28-4)	2 (2) (1)
2月	3		1 (28-2)		
3月	5	1	2 (28-2) 1 (28-3)		1
4月	1		5 (28-3)		
5月	1	1	2 (28-3) 1 (28-5)		2
6月	7	1	2 (28-5)		3
7月	5	1	4 (28-5)		(1)
8月	2		1 (28-5)		(1)
	1		1 (29-2)		
9月	2	1	3 (29-2)	1 (28-4)	2 (1)

平成16年度 第1回研究会開催のお知らせ
第1部会：科学教育戦略研究部会

研究会だより

【テーマ】社会と協働する科学教育研究

本研究会では、標記のテーマのもとに、学校や地域などの社会と連携し、協働する研究の可能性について集中的に議論します。そのために、科学教育研究者が実際に社会と協働している事例として、学校とのプロジェクト型研究を継続している神戸大学発達科学部附属住吉小学校の協力を得て、その研究の現場としての授業を公開します。今回公開される授業、ないしは、当校でデモンストレーションされる取り組みのほとんどは、文部科学省科学研究費補助金、特定領域研究「新世紀型理数科系教育の展開研究」(領域代表・増本 健)に所属する研究チーム(代表、A03:稲垣成哲、A04:鳩野逸生、A04:山口悦司)によるものです(一部、特定領域以外の科研による研究も含まれます)。

【期 日】2004年(平成16年)10月29日(金)~30日(土)

10月29日(金)10:20受付、10:50開始/10月30日(土)9:30受付、10:00開始

【会 場】神戸大学発達科学部附属住吉小学校(29日)/神戸大学瀧川記念学術交流会館(30日)

【参加】発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方も参加できます。

【参加費】『研究会研究報告』購読会員は無料、当日参加者（『研究会報告』購入）は1,000円、参加のみは500円、当日に『研究会研究報告』購読会員に入会の方は4,000円です。

【参加申し込み】電子メールで、inagakis@kobe-u.ac.jp宛てに参加申込をお願いします（注意：これまでに、告知しているアドレスから変更されています）。申込の際は、参加者氏名、所属、参加日（29日、30日）、連絡先（住所及び電子メールアドレス）を記載してください。参加申込締め切りは10月25日（月）です。10月29日（金）のご参加は「昼食の準備（実費をお願いします）」の都合もありますので、必ずお知らせください。周囲には食事ができる場所がありません。事前に申し込みがない場合は、申し訳ありませんが準備できませんので、ご承知おきください。

【本研究会用HP】本研究会に関する詳細な情報は、以下のURLに順次公表します。

<http://human.h.kobe-u.ac.jp/jsse/index.html>

【アクセス】各会場へのアクセスには、以下のURLをご参照ください。

神戸大学発達科学部附属住吉小学校 <http://fsm.h.kobe-u.ac.jp/sumisyo/akusesu.htm>

神戸大学瀧川記念学術交流会館 <http://www.kobe-u.ac.jp/info/access/rokko/index.htm>

【担当】熊野善介（静岡大学）、小川正賢・稲垣成哲・三宅志穂（神戸大学）

【問合せ先】〒657-8501 神戸大学発達科学部 稲垣成哲 e-mail: inagakis@kobe-u.ac.jp

<プログラム>

10月29日（金）10：20～10：50 受付

【公開授業1】10：50～12：20

1. 1年生生活科「いえのしごとにはチャレンジしよう」：ケータイとWebによる情報共有システム

黒田秀子（神戸大学発達科学部附属住吉小学校）

2. 4年生理科「もののすがた変身マップ」：再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア「あんどろ君」

竹下裕子（神戸大学発達科学部附属住吉小学校）

【公開授業2】13：50～15：20

3. 5年生総合「遺伝子組み換え食品問題」：Knowledge Forum

藤本雅司（神戸大学大学院）、橘早苗（神戸大学発達科学部附属住吉小学校）

【総合討論】15：30～16：30

4. CSCLシステムを利用した授業のデザイン実験

○稲垣成哲（神戸大学）、山本智一・黒田秀子・橘早苗・竹下裕子（神戸大学発達科学部附属住吉小学校）、藤本雅司（神戸大学大学院）、大島純（静岡大学）、中山迅・山口悦司（宮崎大学）、村山功（静岡大学）、竹中真希子（大分大学）、大島律子（中京大学大学院）、舟生日出男（茨城大学）、出口明子（神戸大学大学院）、鈴木栄幸（茨城大学）、加藤浩（メディア教育開発センター）、大久保正彦・武田義明・田結庄良昭・小石寛文・土井捷三（神戸大学）、伊東昌子（常磐大学）、坂本美紀（愛知教育大学）、嶋野逸生・五十里美和・望月俊男・小川正賢・近江伸子（神戸大学）

10月30日（土）9：30～10：00 受付

【研究発表1】10：00～12：20

1. 産学官連携創出イノベーション事業「共同利用型教育用デジタルコンテンツ流通プラットフォーム」の研究開発と学習指導の工夫改善モデル策定のための実践授業と評価（1）

○平井尊士（兵庫大学）、川井和彦・高幣俊之・戎崎俊一（理研）、植松貞夫（筑波大学）、吉田和正・青木典司（神戸市教育委員会）、仁田光治（NTT データ）

2. 理科の教育TV番組とインターネットを利用する学校間協働学習：4年生「びっくりか」における植物の観察活動の対話に関する分析

○古田裕理・出口明子（神戸大学大学院）、竹中真希子（大分大学）、稲垣成哲（神戸大学）、武田一則・後藤大介（日本放送協会）

3. 初等中等教育段階における科学技術を支える人材養成～平成4年度生活科授業を受けた大学生の意識調査より～

溝邊和成（広島大学大学院）

4. 中国の小・中・高等学校における情報技術教育

楊導核（神戸大学大学院）

5. 再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェアの機能拡張に関する実験的評価：再生プロセスのブックマーク機能の有効性について

○出口明子（神戸大学大学院）、山口悦司（宮崎大学）、稲垣成哲（神戸大学）、舟生日出男（茨城大学）

6. Web3Dを用いて空間概念の形成を支援するWBLコースの設計と開発

森田裕介（長崎大学）

7. 高等学校化学教科書におけるハーバー法教材表現内容の特徴

郡司賀透（筑波大学大学院）

【研究発表2】13：20～15：00

8. 遺伝子組み換え食品問題に対する社会的意思決定をテーマとした科学教育のためのCSL環境：単元目標の達成の評価

○坂本美紀（愛知教育大学）、竹中真希子（大分大学）、稲垣成哲（神戸大学）、山口悦司（宮崎大学）、大島純（静岡大学）、大島律子（中京大学大学院）、村山功（静岡大学）、中山迅（宮崎大学）、山本智一（神戸大学発達科学部附属住吉小学校）、藤本雅司（神戸大学大学院）、近江伸子（神戸大学）、竹下裕子（神戸大学発達科学部附属住吉小学校）

9. 英国フィールド・スタディーズ・カウンスル(FQ)の組織マネジメント：環境教育事業を推進するユニット（課）の形成

○三宅志穂（神戸大学大学院 / 日本学術振興会特別研究員）、野上智行（神戸大学）

10. 図形に関する命題の理解の実態-中学校3年生の証明活動を事例として-

牧野智彦（筑波大学大学院）

11. WebGIS上に展開する教育ツール「携帯deマッピング」

○全炳徳（長崎大学教育学部）、出口安則（株式会社リョーイン）

12. ケータイの利用と情報モラルに関する現状調査：小学生を対象として

○稲垣成哲（神戸大学）、竹中真希子（大分大学）、出口明子（神戸大学大学院）、大久保正彦（神戸大学）

【講演】15：10～16：10

Trends and issues in Swedish science education（スウェーデンの科学教育：現状と課題）

Oleg Popov, (Department of Mathematics, Technology and Science education, Umea University, Sweden)

平成16年度 第2回研究会開催のお知らせ
インタレスト部会 I

【テーマ】 実践で結ぶ科学教育システム

【共催】 日本科学教育学会九州沖縄支部

【日時】 平成16年11月27日（土）10:20～16:15

【会場】 長崎大学教育学部 〒852-8521 長崎市文教町1-14

JR長崎駅方面から、路面電車の場合は「赤迫」行きに乗り、「長崎大学前」下車。バスの場合は長崎バス1番系統の「滑石」「時津」行きに乗り、「長崎大学前」下車。長崎空港（大村市）からは、長崎市内行きリムジンバスに乗り、「昭和町」下車、徒歩約10分。

【参加・参加費】 発表者以外でも参加できます。当日参加もできます。参加費は、『研究報告』購読会員は無料、当日会員（『研究報告』付き）は1,000円、参加のみは500円、新規購読会員4,000円です。

【担当】 山路裕昭（長崎大学教育学部）

【連絡・問合せ先】 〒852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学教育学部 山路裕昭

TEL/FAX：(095)819-2339 e-mail：yamaji@net.nagasaki-u.ac.jp

<プログラム>

受付（10:00～） 開会式（10:20～10:30）

研究発表 I（10:30～11:50）

【A会場】 1. 小・中・高等学校連携による理科授業の必要性 -ガスバーナー操作の指導から-

○軸丸勇士（大分大学）、藤井弘也（大分大学）、有井初志（大分県立別府青山高等学校）、田代恵（大分市立明野中学校）、中崎真由美（大分市立竹中小学校）

2. “君が作る宇宙ミッション” 高校生体験学習報告

○小山孝一郎（宇宙航空研究開発機構）、福原哲哉（総合大学院大学・博士課程）

3. 課題に挑む心に刻まれる宇宙クイズのその場教育の真髄 -さらば、宇宙研、さらば、宇宙クイズの想い出-

渡邊勇三（宇宙航空研究開発機構）

【B会場】 1. カメラ付き携帯電話を利用したカリキュラムの開発と評価：小学校1年生の生活科「いえのしごと」にチャレンジしよう！

○黒田秀子（神戸大学・附属住吉小学校）、竹中真希子（大分大学）、稲垣成哲（神戸大学）、大久保正彦（神戸大学）、出口明子（神戸大学・大学院）、土井捷三（神戸大学）

2. ケータイの利用と情報モラルに関する現状調査：小学生の保護者を対象として

○竹中真希子（大分大学）、稲垣成哲（神戸大学）、出口明子（神戸大学大学院）、大久保正彦（神戸大学）

3. 「虫嫌いの子供の親は虫嫌いか？」～虫嫌いに関する親子の関連性～

日高俊一郎（宮崎市教育委員会・大淀川学習館）

4. 視点移動能力の育成を支援する惑星模型コンテンツの開発

瀬戸崎典夫（長崎大学・大学院）、森田裕介（長崎大学）、藤木 卓（長崎大学）

昼休憩（11:50～13:00）九州沖縄支部総会（13:00～13:30）

研究発表 II（13:30～16:00）

【A会場】 4. 理科教育分野における大学-地域連携の新しい試み-科学的教育活動による児童・生徒の変容について-

○下村周子（佐賀県立塩田工業高等学校）、森下浩史（長崎大学）

5. 生徒の知的好奇心を喚起する『自己探究』の試み～将来を見据え、意欲を高める理科学習～

○田中秀明（長崎大学・付属中学校）、元村義信（長崎大学・付属中学校）

6. 子どもが科学的リテラシーを身につける理科学習指導の研究～PEO法を導入した理科学習指導～

○椎窓敏広（福岡教育大学・大学院）、宮脇亮介（福岡教育大学）

7. 都会のなかの化石マップの作成とその教材化

○清永峻行（福岡教育大学・学部生）、宮脇亮介（福岡教育大学）

8. 工業高校電気科における課題研究の実践例（過電流防止装置の製作）

佐藤 博（福岡県立小倉工業高等学校）

9. 冷却処理法を利用したウニ受精卵の卵割観察の工夫（2）

○隈元正敬（新富町立上新田中学校）、中山 迅（宮崎大学）

10. 近赤外線タイムラプス撮影による雲の動画教材

○土田 理（鹿児島大学）、木下紀正（鹿児島大学）、金柿主税（御所浦町立御所浦北中学校）

【B会場】 5. 再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア：作成プロセスを再生する機能の拡張

○山口悦司（宮崎大学）、舟生日出男（茨城大学）、出口明子（神戸大学大学院）、稲垣成哲（神戸大学）

6. 反復再生可能型描画システムPolkaの利用と実験によって概念変容をめざす理科の授業 -小学校6年生「植物がデンプンをつくるしくみ」の事例-

○南 信一（宮崎県高原町立広原小学校）、中山 迅（宮崎大学）、林 敏浩（香川大学）

7. 反復再生可能型描画システム Polka の利用と実験によって概念変容をめざす理科の授業 - 中学校 2 年生の「直流回路」の事例-

○福松東一 (宮崎大学・附属中学校)、中山 迅 (宮崎大学)、林 敏浩 (香川大学)、南 信一 (宮崎県高原町立広原小学校)、田中辰典 (宮崎大学)

8. 中学生の科学的記述学力の評価に関する研究 (6)

○隈元修一 (宮崎大学・附属中学校)、福松東一 (宮崎大学・附属中学校)、中山 迅 (宮崎大学)、猿田祐嗣 (国立教育政策研究所)

9. 理科教育における「学力」～戦後の問題解決学習期における学力調査から見た学力観～

中村重太 (福岡教育大学)、○日永田浩明 (大野城市立下大利小学校)

10. 子どもの「学びの心的エネルギー」を看取る評価方法の開発 ～一枚ポートフォリオとVTR分析の比較を通して～

中村重太 (福岡教育大学)、○稲垣浩俊 (福岡県糟屋郡宇美町立桜原小学校)

11. 「エネルギー環境教育」のすすめ

中村重太 (福岡教育大学)

閉会式 (16:00 ～ 16:15)

平成 16 年度 第 3 回研究会開催のお知らせ 発表募集と参加へのお願い

第 2 部会：科学教育実践創造研究部会

[テーマ] IT を利用した教育実践

[共 催] 日本科学教育学会中国支部

[日 時] 平成 17 年 1 月 15 日 (土) 10:00 ～ 16:00 (予定)

[会 場] 岡山理科大学 15 号館 3 階 21531 教室

岡山駅西口にて岡電バスで理大行きに乗り、終点の理大で下車。約 20 分、運賃 190 円。岡山駅西口からタクシーで約 1500 円。アクセス <http://www.ous.ac.jp/summary/access.html>

当日は、センター試験の会場になっていますので、玄関に看板を出せません。正門をまっすぐに入って約 100m 行った所で、左に曲がってください。その当たりから日本科学教育学会研究会を記載した行き先表示を出しておきます。

[発表申込方法] テーマに関連する発表を中心としますが、それ以外の一般研究発表も歓迎いたします。研究発表題目、氏名、所属 (共同研究者を含む、複数場合は登壇者に○を付ける)、使用機器、連絡先 (住所、電話、E-mail)、発表概要を電子メール、FAX 等にて、下記連絡先までお知らせ下さい。折り返し、『研究報告』誌原稿執筆要項等をお届けします。

[発表申込締切] 平成 16 年 11 月 19 日 (金)

[原稿提出締切] 平成 16 年 12 月 15 日 (水) 必着

[参 加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方も参加できます。当日参加もできます。できるだけ事前に電子メールでお申し込み下さい。

[参加費] 『研究報告』購読会員は無料、当日会員 (『研究報告』付き) は 1,000 円、参加のみは 500 円、新規購読会員 4,000 円です。

[担 当] 宮地 功 (岡山理科大学)

[連絡・問合せ先] 〒700-0005 岡山市理大町 1-1 岡山理科大学総合情報学部 宮地 功

TEL/FAX : (086)256-9651 e-mail : miyaji@mis.ous.ac.jp

日本科学教育学会平成 15 年度 第 6 回研究会 開催報告

平成 15 年度第 6 回研究会 (第 3 部会：科学教育 ICT 研究部会) は、平成 16 年 6 月 12 日 (土) に、信州大学しなのき会館 (長野市) を会場として開催された。「教員養成・現職教員研修と e-Learning 及び ICT 利用の教育実践」をテーマに、35 名の参加を得て、計 21 件の研究発表が行われた。IT 活用・評価に関する研究が 8 件、総合学習および科学教育全般に関する研究が 7 件、教員養成・教員研修に関する研究が 6 件であった。

IT 活用・評価に関する研究として、小学校低学年の国語や音楽でデジタルカメラの動画撮影機能を活用した実践 (中村聡士氏)、ルーブリックを活用した総合的な学習の時間の実践 (山本秀樹氏)、PDA とワイヤレス LAN を用いたリアルタイム児童評価ネットワークの実践 (河西一樹氏) などの小学校における実践研究発表や、INTASC スタンダードを活用した教師の自己評価 (富本保明氏)、数値目標を示して取り組む教員の IT 利用研修 (熊原精一氏)、基礎学力向上を目指す e-Learning システム導入による教員の変容 (中島研一氏) などの ICT を活用した教師の指導力向上に関する発表のほか、野外観察学習に有効なモバイル環境の提案 (高藤清美氏) や再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェアに対する教師の評価 (出口明子氏) などの授業実践や授業改善に ICT を活用する発表があった。

午後は、総合学習・科学教育全般に関する発表が行われた。松や杉などの木を題材とする総合学習 (保坂修氏、竹内和俊氏)、聴覚障害学生への情報保障 (鈴木恵美子氏)、サイエンスメディアータによる科学伝道 (上島豊氏)、科学教育ボランティア活動を採り入れた物理教育 (船田優氏)、ものづくりを通じた創造性の育成を目指す新科目『科学技術』 (松森弘治氏)、そして問題解決学習の実践的指導力向上を目指す教員研修 (今田利弘氏) のように、新世紀における理数科系科目の新しい展開のための提案やその実践研究が発表された。

そして、第 3 セッションでは、本研究会のテーマである教員養成および教員研修に関する研究発表が行われた。ICT を活用して海外から遠隔講義をした教育実習事前・事後指導の実践 (谷塚光典)、「大幅帳」を用いた教員養成大学の授業改善の試み (南部昌敏氏)、教育委員会と大学が連携した現職教員研修の岐阜県における展開 (村瀬康一郎氏) などの教員養成大学・学部における実践に加えて、教員研修を支援する Web ベー

スの学習システムと研修教材の開発（片岡弓人氏）、科学教育における情報サイト運営上の課題と今後の展開（川村康文氏）、理科教育のデジタルコンテンツを開発・共有利用する実践（平井尊士氏）などの ICT 利用による先進的な教員養成・教員研修とそれに支えられた新しい授業実践の可能性に関する提案がなされた。
（文責：谷塚光典・東原義訓（信州大学））

平成 16 年度 日本科学教育学会 研究会 今後の開催予定

第 4 回 インタレスト部会 II 「臨床的研究方法」

期日 平成 17 年 3 月 26 日（土） 会場 静岡大学教育学部 担当 熊野善介 (edykuma@ipc.shizuoka.ac.jp)

第 5 回 第 3 部会 「科学教育 ICT 研究部会」

期日 平成 17 年 4 月 23 日（土） 会場 福山大学人間文化学部 担当 三宅正太郎 (miyake@oct-net.ne.jp)

第 6 回 第 4 部会 「科学教育人材養成研究部会」

期日 平成 17 年 5 月 14 日（土） 会場 上越教育大学 担当 小林辰至 (tkoba@juen.ac.jp)

詳細につきましては決定次第、「科学教育研究レター」誌、研究会ホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/jsse2/activity/session/index.htm>) 等で告知いたします。

日本科学教育学会 研究会事務局

研究会事務局（全体・諸連絡）

〒 943-8512 新潟県上越市山屋敷町 1 上越教育大学自然系教育講座 小林辰至

TEL&FAX: (025)521-3434 e-mail: tkoba@juen.ac.jp

研究会事務局（編集・印刷）

〒 943-8512 新潟県上越市山屋敷町 1 上越教育大学学習臨床講座 藤岡達也

TEL: (025)521-3500 e-mail: fujioaka@juen.ac.jp

○発表申込先：開催校担当者または研究会事務局（全体・諸連絡）

○原稿送付先：上越教育大学 藤岡達也 宛

○『研究報告』誌購読費（年会費 4,000 円）振込先：郵便局払込取扱票にて

加入者名 日本科学教育学会 口座番号 00170-6-85183

○研究会ホームページ：<http://www.soc.nii.ac.jp/jsse2/activity/session/index.htm>

科研費のお知らせ

平成 17 年度 科学研究費補助金

基盤研究・特定領域研究・萌芽研究・若手研究・研究成果公開促進費・奨励研究

(系) 総合・新領域 (分野) 総合領域 (分科) 科学教育・教育学 (細目) 科学教育 (細目番号) 1601

■大学・研究機関

科学研究費補助金の公募が開始されました。申請書は文部科学省と独立行政法人日本学術振興会のホームページからダウンロードできます。特定領域研究（領域番号）008「新世紀型理数科系教育の展開研究」では、今年、2年間の研究を公募しています。基盤研究(A)(B)(C)では「研究(1)」「研究(2)」の区分がなくなりました。現在、特定領域研究や基盤研究などの科学研究費補助金の助成を受けている方は、文部科学省が取り扱う研究成果公開促進費の研究成果公開發表(A)を申請することができます。

【文部科学省】 http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/koubotop.htm

特定領域研究 単年度あたり 300 万円～500 万円程度（教育用コンテンツ開発を伴う研究 2,500 万円上限）2 年間
研究成果公開促進費（研究成果公開發表(A)：シンポジウムなどによる研究成果の社会への公開や国際発進）

【独立行政法人日本学術振興会】 <http://www.jspss.go.jp/j-grantsinaid/index.html>

研究種目	申請金額	審査区分	研究期間
基盤研究(S)	5,000 万円以上 1 億円程度まで	-	原則 5 年
基盤研究(A)	2,000 万円以上 5,000 万円以下	一般・海外学術調査	2～4 年
基盤研究(B)	500 万円以上 2,000 万円以下	一般・海外学術調査	2～4 年
基盤研究(C)	500 万円以下	一般・企画調査	一般 2～4 年 企画調査 1 年
萌芽研究	500 万円以下	-	1～3 年
若手研究(A)	500 万円以上 3,000 万円以下	-	2～3 年
若手研究(B)	500 万円以下	-	2～3 年
研究成果公開促進費（学術図書、データベース）			

締め切りは、大学・研究機関によって異なりますので、各自でご確認ください。文部科学省および独立行政法人日本学術振興会への各機関からの提出締め切りは、平成 16 年 11 月 15 日（月）～11 月 18 日（木）です。

■学校・教育委員会・教育研究機関

「奨励研究」に申請することができます。公募の案内は例年 11 月ごろに、上述の独立行政法人日本学術振興会のホームページに公開されます。

まもなく 30 周年を迎える本学会の課題の一つに、会員数をどう拡大するかということがあります。本学会は、科学や科学技術と教育、教育の科学化、工学化を取り扱う幅広い研究領域をカバーしたユニークな学会です。したがって、昨今のように、一方で、科学技術創造立国という政策が全面的に展開され、他方で、「理科離れ」「科学離れ」に対する国民的な危機意識が識者の間に広がり、教育の I T 化が進行している社会状況においては、多くの教育関係者が、この学会に目を向けて下さるはずだし、目を向けてほしいと思うのです。会員数がここ数年横ばい状態にあるのはなぜかという問題を解明できれば、もっと会員が増えるような手立てを考えることができると思います。新しい理事会が発足したばかりで、まだ、検討を開始しておりませんから解答は得られていませんが、ここでは、私なりの見方を述べ、会員拡大活動に多くの会員の協力をお願いしたいと思います。

ここ数年の会員数変化をみてみますと、全体としては、ほぼ一定数（1180 名程度）で推移しております。特徴は、入会会員数と退会会員数がほぼ等しいという点にあります。新規入会者は大学院入学者、退会者は大学院修了者というのが典型的なパターンです。大学院生時代に学会発表などをされた会員が、学校教育現場に出られる（あるいは復帰される）と本学会から離脱される。これは学会としては真摯に受け止めるを得ません。現場で新しい研究に取り組もうという意欲、新しい研究成果を学会から甘受しようという動機を学会が与えられなかったこと、これらが原因と考えられます。これをどう克服していくかが本学会の重要な課題です。本学会の年会費を高いとみるか安いとみるか。意見が分かれるところですがそんなに安いとは思えません。その会費に見合うだけの情報や利益を学会が提供できていない可能性があるということは、私をはじめ理事会メンバーは十分に認識してはなりません。そして、彼らが留まってくれるような魅力ある学会活動を考えることが大切になります。

その一方で、新しい研究仲間を本学会にリクルートするという体系的な方策も必要だと思います。第一に、そして、もっとも会員の皆様のお力をいただきたい活動は、皆様一人ひとりが、すぐ近くにおられる友人や仲間を一人ずつ、リクルートしていただく活動です。一人ひとりの会員が「ほんの少しずつ」力を発揮していただければ、大きな力になるからです。是非、「声かけ」運動をよろしくお願いいたします。

そして、第二に、近年急速に展開してきている研究領域に取り組んでおられる方々に声をかけていただくことです。たとえば、科学館や科学系博物館、水族館、動物園などで展示解説、教育普及活動に取り組んでおられる方々、高等専門学校で工学教育や数学教育に取り組んでおられる方々、大学・大学院教育における自然科学教育（高等科学教育）に取り組んでおられる方々、高大連携事業、スーパーサイエンスハイスクール事業などに取り組んでおられる方々、国際教育協力の実務にかかわっておられる方々などは、科学教育研究に新しい領域を開拓していかれる希望の星です。会員の皆様の中で、これら新領域の研究や活動に取り組んでおられる知り合いの方がいましたら、是非お声をおかけいただきたいと思います。入会案内は学会ホームページでアクセスできますし、また、学会事務局に連絡をいただいても結構です。

もちろん、学会としましては、さまざまな会合やシンポジウムなどの場を通して、また、ホームページやパンフレットの配布を通して、会員拡大のキャンペーンを行っていききたいと思います。会員の皆様からのアイデアもどんどん事務局に送っていただきたいと存じます。

新しい仲間の加入は、学会のパワーアップにつながります。時代の急速な変容の中で、新しい科学教育研究の輪を拡大する活動に、ご協力をお願い申し上げます。

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 165 号を、お送りいたします。今号から、新編集委員会で作成しております。それにともない、広報委員会のメールアドレスが変わりました。お気づきの点などございましたら、新アドレスまでお知らせください。

新メールアドレス：jsse-pr@itl.k.u-tokyo.ac.jp

担当理事： 吉川 厚（NTT データ）、磯 哲夫（広島大）
 委員： 大辻 永（茨城大）、川本佳代（広島市立大）、銀島 文（金沢大）
 清水 欽也（広島大）、杉本雅則（東京大）、隅田 学（愛媛大）
 高垣マユミ（鎌倉女子大）、高藤清美（筑波女子大）、人見久城（宇都宮大）
 森田 裕介（長崎大）、山口悦司（宮崎大）
 幹事： 竹中真希子（大分大）

科学教育研究レター編集・印刷

〒153-8681 東京都目黒区下目黒 6-5-22 国立教育政策研究所内 日本科学教育学会広報委員会
 TEL：(070)5541-6615 FAX：(03)3714-0986 e-mail：jsse-pr@itl.k.u-tokyo.ac.jp